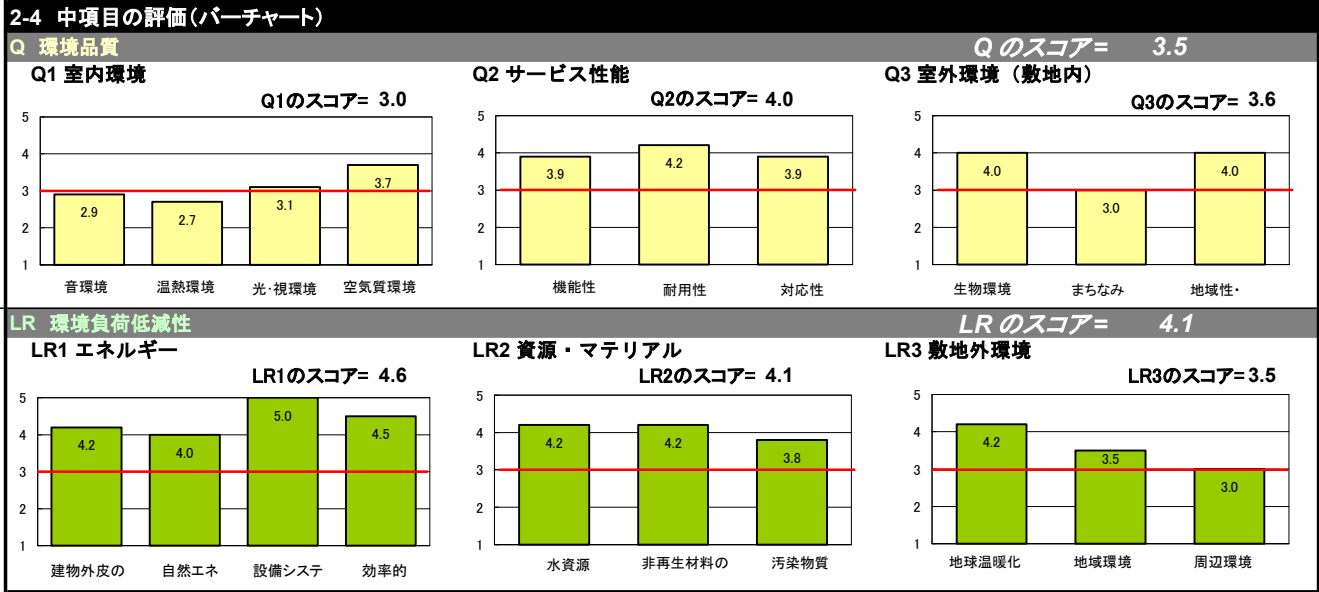
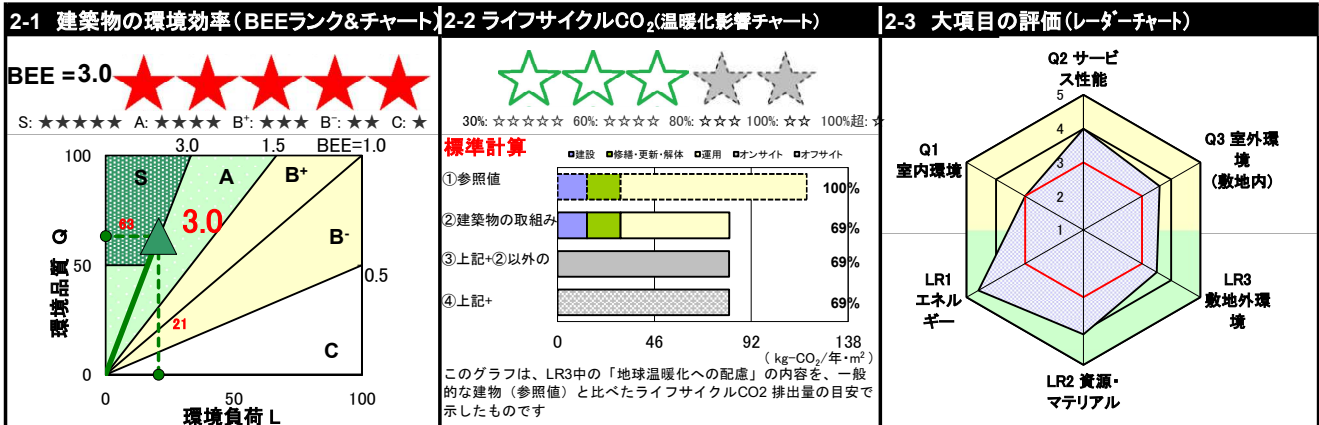


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社村田製作所守山イノベーションセンターPJT	階数	地上18F
建設地	滋賀県守山市浮気町字中ノ町 300-14, 300-35	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	2,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2026年4月15日
敷地面積	9,967 m ²	作成者	株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所 神田
建築面積	6,497 m ²	確認日	2026年4月15日
延床面積	65,068 m ²	確認者	株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所 神田



3 設計上の配慮事項		その他
総合 積極的な環境配慮(外皮性能の向上・緑化・資源循環)、近隣住民の生活配慮を行う等地域の喜び、誇りとなるよう計画している		
Q1 室内環境 ・開口部は遮音性能に優れた開口部を採用 ・照度センサーによりブラインド自動制御	Q2 サービス性能 免震構造による損傷制御設計の実施	Q3 室外環境(敷地内) 守山駅東ロータリーに面した建物正面は地域住民も通期うできる開放的なスペースがあり、線路側には緑地帯を設け、自然豊かで安心安全な歩道状空地を計画している
LR1 エネルギー ・全館LED照明の採用/照明制御計画/太陽光パネルの設置 ・節水器具の採用 等	LR2 資源・マテリアル リサイクル材の積極的な採用	LR3 敷地外環境 ・適切な数の駐車・駐輪スペースを計画 ・公共交通機関利用の推進をしている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
株式会社村田製作所山イノベーションセンターPJT

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.5	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				2.9	0.15		-	2.9	
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.8	0.40		-		
1 開口部遮音性能		T-2以上		5.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				2.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-		-		
1.3 吸音		-		1.0	0.20		-		
2 温熱環境				2.7	0.35		-	2.7	
2.1 室温制御				3.6	0.50		-		
1 室温		-		3.0	0.38		-		
2 外皮性能		高性能外装材料を採用する。50mmの外壁断熱材・Low-Eガラス		4.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		方位別にゾーニングがされており、冷暖フリーを採用している		4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20		-		
2.3 空調方式		-		1.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.1	0.25		-	3.1	
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-		
1 昼光率		-		1.0	0.60		-		
2 方位別開口		-		-	-		-		
3 昼光利用設備		-		3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				5.0	0.30		-		
1 昼光制御		照度センサーによりブラインド角度を自動制御		5.0	1.00		-		
3.3 照度		500lx以上		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御		-		2.0	0.25		-		
4 空気質環境				3.7	0.25		-	3.7	
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		内装材料は全てF☆☆☆☆を採用している		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.0	0.30		-		
1 換気量		30m ³ /h人以上を満たしている		4.0	0.33		-		
2 自然換気性能		-		1.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は汚染源のない方位に設けられている。かつ、6m以上離れて設置されている		4.0	0.33		-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		屋外喫煙所を確保		5.0	0.50		-		

Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	4.0
1	機能性		3.9	0.40	-	-	3.9
	1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性	一人あたりの執務スペース9.2㎡以上	4.0	0.33	-	
	2	高度情報通信設備対応	-	1.0	0.33	-	
	3	バリアフリー計画	バリアフリー義務基準に加えて誘導基準を満たす。	4.0	0.33	-	
	1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観	琵琶湖・比叡山系方面への眺望が確保されている。	5.0	0.33	-	
	2	リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置	5.0	0.33	-	
	3	内装計画	各階主に西面にリフレッシュスペースを設置している。	5.0	0.33	-	
	1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計	メンテナンス性の高い仕上材を採用	4.0	0.50	-	
	2	維持管理用機能の確保	清掃作業に配慮した室を計画している。	4.0	0.50	-	
	2 耐用性・信頼性		4.2	0.30	-	-	4.2
	2.1 耐震・免震・制震・制振		5.0	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	免震構造による損傷制御設計を行っている。	5.0	0.80	-	
	2	免震・制震・制振性能	ダンパーを設置し、振動を抑制している。	5.0	0.20	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	
	2	外壁仕上材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	
	3	主要内装仕上材の更新必要間隔	床:20年 壁:30年 天井:40年 >20年以上	4.0	0.10	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクト、厨房排気ダクトなどステンレスや銅板にするなど長寿命化をはかっている	4.0	0.10	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	-	2.0	0.20	-	
	2.4 信頼性		4.6	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備	災害時を考慮した空調換気系統・機器固定を実施する。	5.0	0.20	-	
	2	給排水・衛生設備	災害時対応の汚水槽・緑地散水用雨水タンクを設置している（※バックアップを考慮した衛生系統・省資源型衛生器具を採用）	5.0	0.20	-	
	3	電気設備	※ 非常用発電設備、重要設備系統電源の二重化等、事故リスク対策を行っている。	5.0	0.20	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化、無停電装置設置 等	4.0	0.20	-	
3	対応性・更新性		3.9	0.30	-	-	3.9
	3.1 空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	最小階高を4.5mとしている。	5.0	0.60	-	
	2	空間の形状・自由さ	居室を整形し、レイアウトの自由度を確保している。	4.0	0.40	-	
	3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		4.2	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	4階に設備階設置、開発室は天井裏での作業が可能であり、その他室も適切に点検口を設けているため、構造部材だけでなく仕上材も傷めることなく空調配管の更新・修繕ができる	4.0	0.20	-	
	2	給排水管の更新性	各給排水管はPS内に敷設されており、構造部材を傷めずに修繕可能な計画としている。かつ、各大便器上部に点検口を設けることで構造部材、仕上材を痛めることとなる修繕、更新可能	5.0	0.20	-	
	3	電気配線の更新性	開発室は天井裏での作業が可能であり、その他室も適切に点検口を設けているため構造部材だけでなく仕上材も傷めることなく電気配線の更新・修繕ができる ケーブルラックの採用	5.0	0.10	-	
	4	通信配線の更新性	スタッフ室内はOAフロアとなっており、その他室には適切に天井点検口を設けることで、構造部材だけでなく、仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる。また各階EPSは全面扉となっており、シャフト内で作業の完結が可能な計画としている	5.0	0.10	-	
	5	設備機器の更新性	更新・修繕に対応したルートが確保されている 4階へはレッカー車にて荷上げ	3.0	0.20	-	
	6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている。分岐配管やバルブを設けているため建物機能を維持しながら更新・修繕が可能	4.0	0.20	-	

Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	3.6
1	生物環境の保全と創出		守山の生物・植物環境に対応した緑地を確保し、駅前地区に潤いを与える。	4.0	0.30	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		景観シミュレーションにより、外観デザインを行う。	3.0	0.40	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域にひらかれた大きな軒下空間、テラスを設けるとともに、地域住民が安心して通行できる経路を設計している。	5.0	0.50	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	4.1
LR1 エネルギー				—	0.40	-	4.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m :0.88	4.2	0.20	-	4.2
2	自然エネルギー利用		自動制御の排気口を備えたエコヴォイドにより、中間期の通風換気を効率的に行うことができる。	4.0	0.10	-	4.0
3	設備システムの高効率化		BEI _m :0.60	5.0	0.50	-	5.0
4	効率的運用			4.5	0.20	-	4.5
	集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	
	4.1	モニタリング	※エネルギー消費の検証と継続的改善を行う	4.0	0.50	-	
	4.2	運用管理体制	運用管理体制を計画しており、エネルギー消費で量の目標値が計画され、建築主に提出している。運用時の具体的な実施方策の計画	5.0	0.50	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	4.1
1	水資源保護			4.2	0.20	-	4.2
	1.1	節水	自動水栓、節水コマに加えて省水型衛生機器の採用している	4.0	0.40	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		4.4	0.60	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用によって雨水利用率の21.1%を満たしている	5.0	0.70	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	
2	非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	4.2
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	主要構造部に、高炉セメント・電炉鋼を採用している。	5.0	0.20	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ソーラトン、マチュアNW、OAフロア	5.0	0.20	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	各部位において、再利用性と施工性が高い乾式ユニットを採用する。	5.0	0.20	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	3.8
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着剤、塗料、塗床などで、有害物質を含まない材料を採用する。	5.0	0.30	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.70	-	
	1	消火剤	ODP=0 GWP=0	4.0	0.33	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.33	-	
	3	冷媒	ODP=0の冷媒を使用している	3.0	0.33	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	3.5
1	地球温暖化への配慮		—	4.2	0.33	-	4.2
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場・トラックヤードなどを十分確保している。	5.0	0.25	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	廃棄物庫を設置している。※ ゴミ減量のための取り組みを行っている。	2.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	
	1	騒音	—	3.0	0.50	-	
	2	振動	—	3.0	0.50	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	
	3.3	光害の抑制		3.0	0.20	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	近隣に光害が及びにくいよう開口部位置を調整している。	3.0	0.70	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

株式会社村田製作所守山イノベーションセンターPJT

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	8.0		○	○	-	-	○	○	○	○	-	○	-	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0				○	-	-	○	○	○	○	○	-	○	
2.4.1 空調・換気設備	3.0		-	○	-	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	○	-	-	○	-	○						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	-	○	○	-	○							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	-	○							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0		2.0	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	-	2.0	2.0	1.0	2.0	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	1.0	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	1.0	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		-	○	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	-	1.0	2.0	-	-	2.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.4	窓の日射熱取得率(η) -							
U値(W/m2K)		窓システム	1.5	屋根	0.5	外壁	0.4	床	0.5
住戸部分	窓システムU値 -		外皮UA値 -		η AC -		η AH -		
昼光率	0.0%								
自然換気有効開口面積率	0.0%								

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	9.2㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	2.5 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定耐用年数	0 年
想定必要間隔	15 年
想定必要間隔	20 年
想定必要間隔	0 年
階高	4.5 m
壁長さ比率	13.0%
床荷重	2900 N/m2

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	60%	建物緑化指数	68%				
空地率	35%	水平投影面積率	24%	地表面对策面積率	26%	舗装面積率	24%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.88	断熱等性能等級	等級2 相当							
自然エネルギー直接利用量	11.81 MJ/年㎡		採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%				
			通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%				
BPI/BPI _m	非住宅	0.60	住宅	-	太陽光	0kW	太陽熱等	0kW	蓄電池	0kW

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

雨水利用率	21.1%				
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	0		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	8		

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		185% 隣棟間隔指標Rw 0.36									
地表面对策面積率		42.0%		屋根面对策面積率		16.0%		外壁面对策面積率		#DIV/0!	
見付面積Sb		4,915㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		95.8 m		基準高さHb		27.69 m	
緑地	5,430㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡		